

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「フィッシュシェアリング」事業

地産地消で子どもたちの成長に寄与しつつ、 尼崎の海の幸で新たな循環を創り出す

兵庫県尼崎市の海で獲れた魚を子ども食堂や食育現場に食材として届けることを通じて、子どもの貧困対策をサポートしたり、地産地消の大切さを周知する活動に取り組んでいる団体がある。この団体がさらに魚を余すことなく使うことで、尼崎の海が新たなエコロジーサイクルの源となるような活動にも取り組み始めた。



釣り人から提供してもらった魚



提供してもらった魚で作った子ども食堂の食事

釣り人から提供してもらった魚を加工して 子ども食堂や食育活動の現場に届ける

年間約10万人の釣り人が訪れるという兵庫県尼崎市南部の海岸で、地元のNPO法人「武庫川ECO-LABO」は訪れる釣り人たちに協力をお願いし、釣れた魚の一部を新鮮なうちに提供してもらい、しっかりと下処理した後に真空パックで冷凍保存し、地域の子どもの食堂をはじめ、食育活動を実施している行政機関や団体、保育園、専門学校、飲食店などの給食や調理素材として提供する「フィッシュシェアリング事業」に取り組んでいる。

同法人では2022年度、POSCの助成を活用し、尼崎市市内の子ども食堂を中心に、約8,500人前の食材の提供を行った。また、1年を通して子どもたちを尼崎市の海に呼び込んで実施している地産地消をテーマにした環境学習では、幼稚園・保育園の園児から、小・中・高校生、大学

の環境学部の学生まで、延べ500名の子どもの若者たちが参加し、年齢に応じて海と魚に触れ合い、釣りで確保した魚を調理して食べることを通じ、五感すべてで尼崎の海を体験してもらった。食材を提供することで子どもたちの健やかな成長へ寄与することはもちろん、子どもたちが地産地消の意義や大切さについて学ぶ環境学習は、地元への愛着を増やすためのツールとしても役立てることができると考えた。

同法人では、魚でつながる縁を地元で築くための活動にも取り組んでいる。例えば飲食店への食材提供では、各々の店舗で利益が出た際、得意な料理などを提供してもらったり、ホテルへの食材提供では、レストランから自社製のケーキを送ってもらったりして、子ども食堂の支援につなげている。

食材の魚を余すことなく使い切ることで 新たな循環を社会に創り出す取り組み

さらに武庫川ECO-LABOでは、尼崎の海の幸を使って新たな社会的循環やエコロジーサイクルを創り出すための活動も展開している。

それが、食材としてさばき終わった魚も残さずしっかりと活用する取り組みである。一部に身がついた、いわゆるアラ部分は、保護猫・犬の餌としてNPO法人や団体などに提供しているほか、就労継続支援B型事業所との協働でペットフードを製造し、販売している。その売上をすべて事業所側に提供することで、安定した障がい者雇用につながるようにしている。

また、最後に残った魚の骨の部分については、魚かす粉末として肥料登録を行ったうえで、肥料として加工し、様々な環境学習を実施している環境団体へ提供している。こ

の肥料は、同法人が自ら行う地産地消の環境学習にも役立てられている。活動に参加した子どもたちに持ち帰ってもらい、学校や施設の菜園や花壇で使用してもらうにしている。魚の食材提供に対して、子どもたちから「魚がおいしい」という言葉がつけられた手紙をいただくことが何よりの喜びだが、最近では魚かす肥料を提供している個人農家の方から「野菜がおいしく育っている」という手紙をもらうことも増えている。さらに、そうして栽培された野菜が、子ども食堂に食材として提供されるという道筋もでき上がった。これらの取組が尼崎の海の魚が形を変えて新たな循環を生み出していることを知ることができ、うれしく感じている。年々、高齢化で子ども食堂の運営を休止したり、一時閉鎖しているといった連絡を受けることもあるが、そうした運営者の苦労を少しでも支えていけるように活動することが今後の課題である。



子ども食堂に訪れる子どもたちを招待し、釣り体験やさばきなど食育と環境学習を実施



助成団体:特定非営利活動法人 武庫川ECO-LABO

<https://www.mukogawaeco-labo.com>



地元のみならず、他府県からも参加する学校が増えました

今回で二度目の助成をしていただき、ありがとうございました。一度目は当団体の立ち上げに活用させていただきましたが、今回の助成では従来の活動からさらに活動の幅を広げる飛躍の年にする事ができました。海に学習に来る子どもたちは地元が中心でしたが、今年度は京都府や兵庫県内の他市から学年単位で来てくださる学校も増えました。

特定非営利活動法人 武庫川ECO-LABO
理事長 宮本 悦男さん